

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮案件	階数	地下0階地上3階
建設地	※詳細-宮崎県宮崎市宮原町(仮称)一宮案件(1)番号0001(1)番号0001(1)番号0001	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	286人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年4月 予定	評価の実施日	2025年10月1日
敷地面積	25,746 m ²	作成者	株式会社双葉デザイン一級建築士事務所矢崎 暁
建築面積	4,018 m ²	確認日	2025年10月1日
延床面積	11,809 m ²	確認者	株式会社双葉デザイン一級建築士事務所矢崎 暁

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 53% (46 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 53%

④ 上記+: 53%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.1**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気環境	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	N.A.
耐用性	2.8
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.4

生物環境	1.0
まちなみ	1.0
地域性*	2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.4**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

建物外皮の	N.A.
自然エネ	N.A.
設備システ	N.A.
効率的	N.A.

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.0
非再生材料の	2.5
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

地球温暖化への配慮	4.8
地域環境への配慮	3.4
周辺環境への配慮	3.2

3 重点項目

<h4>① 地球温暖化への配慮</h4> <p>4.8</p>	<h4>③ 敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>6.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>② 資源の有効活用</h4> <p>2.8</p>	<h4>④ 地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用
Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)一宮案件

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
		Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境											-
1 音環境											-
1.1 室内騒音レベル					3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音					-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能					-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能					-	-	-	3.0	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	3.0	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	3.0	-	-	-
1.3 吸音					-	-	-	3.0	-	-	-
2 温熱環境											-
2.1 室温制御					-	-	-	-	-	-	-
1 室温					3.0	-	-	3.0	-	-	-
2 外皮性能					3.0	-	-	3.0	-	-	-
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御					3.0	-	-	3.0	-	-	-
2.3 空調方式					3.0	-	-	3.0	-	-	-
3 光・視環境											-
3.1 昼光利用					-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率					3.0	-	-	3.0	-	-	-
2 方位別開口					-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備					3.0	-	-	3.0	-	-	-
3.2 グレア対策					-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御					5.0	-	-	3.0	-	-	-
3.3 照度					3.0	-	-	3.0	-	-	-
3.4 照明制御					3.0	-	-	3.0	-	-	-
4 空気環境											-
4.1 発生源対策					-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質					3.0	-	-	3.0	-	-	-
4.2 換気					-	-	-	-	-	-	-
1 換気量					3.0	-	-	3.0	-	-	-
2 自然換気性能					3.0	-	-	3.0	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮					3.0	-	-	3.0	-	-	-
4.3 運用管理					-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能											3.1
1 機能性											-
1.1 機能性・使いやすさ					-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性					3.0	-	-	3.0	-	-	-
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	3.0	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性					-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	-	-	3.0	-	-	-
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画					3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理					-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計					3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性											2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.5	2.8	0.52	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.4	3.0	0.48	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.80	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	2.5	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.10	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	-	0.17	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.4 信頼性					0.1	3.0	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備					3.0	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備					3.0	-	-	-	-	-	-
3 電気設備					3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
5 通信・情報設備					3.0	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	2.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性			-	-	-		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	-	-		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.20		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.40		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.40		-	-	
壁長さ比率0.096554 許容積載荷重5400N/㎡以下									
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	1.0	0.40		-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー									
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-		-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-		-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-		-	-
4 効率的運用				-	-	-		-	-
集合住宅以外の評価				-	-	-		-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-		-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-		-	-
集合住宅の評価				-	-	-		-	-
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-
LR2 資源・マテリアル					-	0.50		-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-		-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00		-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63		-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自	-	3.0	0.21		-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.21		-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.25		-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22		-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68		-	-
1 消火剤				-	-	-		-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	5.0	1.00		-	-
3 冷媒				3.0	-	-		-	-
発泡系の断熱材の使用無し。									
LR3 敷地外環境					-	0.50		-	3.8
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率53%	-	4.8	0.33		4.8
2 地域環境への配慮					0.3	3.4	0.33		3.4
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25		-
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25		-
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-
3 交通負荷抑制			独自			4.0	0.25		-
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-
自転車、車の利用に配慮した計画としている。									
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-
2 振動			独自		-	-	-		-
3 悪臭					-	-	-		-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-
1 風害の抑制					-	3.0	1.00		-
2 砂塵の抑制					-	3.0	-		-
3 日照障害の抑制					-	-	-		-
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	5.0	0.70		-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-
光害の影響を配慮した計画としている。									

重点項目スコアシート
(仮称)一宮案件

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.17	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.32	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:6.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮案件

計画上の配慮事項	
総合	同敷地内のパチンコ店の立体駐車場として、利用者に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	特になし
Q2 サービス性能	空間、荷重負荷にゆとりを持たせている。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	特になし
LR2 資源・マテリアル	発泡系の断熱材を使用していない。
LR3 敷地外環境	<p>燃焼機器を使用していない。</p> <p>自転車、車の利用に配慮した計画としている。</p> <p>光害の影響を配慮した計画としている。</p>
その他	